

1 提案の概要

(1) 単元について

全国学力・学習状況調査の結果から、本県の児童は「読むこと」に課題があることが明らかになった。そこで、「読むこと」に関わる教材である「おとうとねずみ チロ」を活用し、登場人物の気持ちを考えながら読み、読み取った気持ちを表現する活動を取り入れた授業を展開することで、児童が「国語の勉強が楽しい」と感じ、主体的に学習に取り組むことができる考えた。

○大切にしたこと

- 物語を読み進める際のコツを活用する
- 「思考（読む）」と「表現（音読）」の往還を生む
- 自己を見つめる振り返り活動を行う

(2) 具体的な授業実践

■物語を読み進める際のコツを活用する

物語を読み進めるために身に付けさせたいコツを表にして表し、「想像する」「見付ける」「比べる」の項目が1年間で網羅できるように計画して実施した。教師は1年間を見通した完成された表を持っていき、それを意識して授業を行うようにした。児童は、10月教材「サラダでげんき」で、教材を読み進めながら教師と一緒にコツを考え、教師は、学んだコツを児童が意識できるように掲示していった。11月教材「おとうとねずみチロ」からは、コツだけを示した表を児童に配布し、使えたコツに印をつけていくようにした。

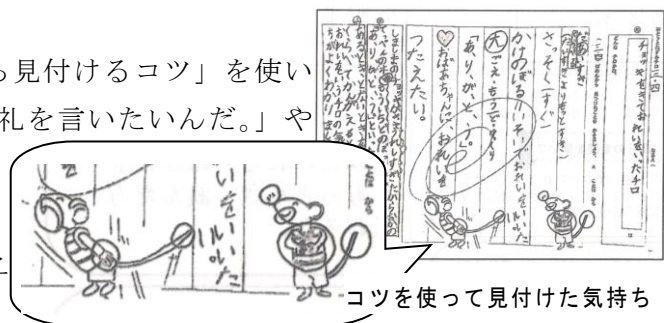


物語を読むコツをだんだん増やしていった掲示

項目	そうぞうする			みつける		くらへる		その他
	目	み	う	え	う	ま	う	
10月		○		○	○			
11月	○	○		○	○	○	○	
12月	○	○		○	○	○	○	○
1月	○	○		○	○	○	○	○
2月	○	○		○	○	○	○	○
3月	○	○		○	○	○	○	○

物語を読むコツを示した表（教師用）

3・4場面の学習では、「絵や動きから見付けるコツ」を使い「体が前へ倒れているから大きな声でお礼を言いたいんだ。」や「しっぽもひげもびんっと伸びているからチョコキをもらってすごうれしくてお礼を伝えたい気持ちが分かる。」と考えることができていた。



コツを使って見付けた気持ち

## ■「思考（読む）」と「表現（音読）」の往還を生む

コツを使って読み取ったり、想像したりしたことを音読で表現し、その表現を聞いて、自分が想像したことが表れているか確認することを繰り返すことで、もう一度想像したことに立ち返り、自分の音読を見直すきっかけにした。そこに、思考と表現の往還が生まれ、想像したことを表現に生かす楽しさや、さらにこんな工夫もしたいという意欲付けにつながった。

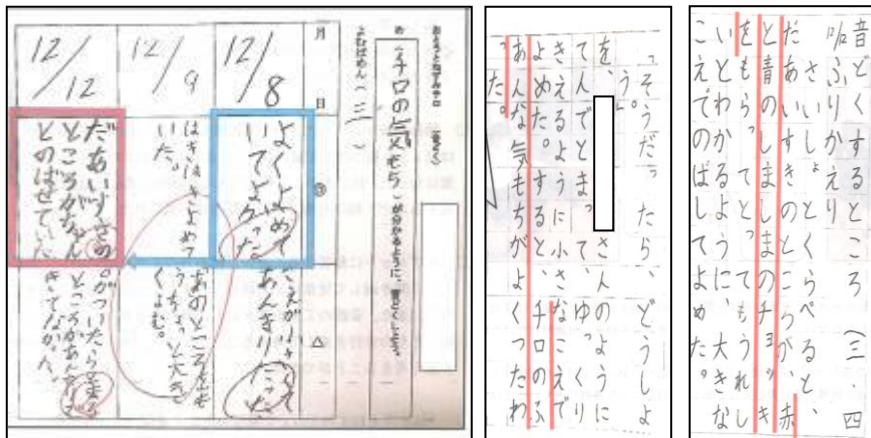
### ○第6時（表現）の授業の流れ

- ①友達と音読の練習をする。（同じ場面を選んだ児童10人ずつ3グループで）
- ②友達と一緒に、ボイスレコーダーに録音し、聞き合う。
- ③自分の音読を振り返り、もう一度授業のノートを見て、チロの気持ちを思い出す。
- ④もう一回練習して、録音する。

「よく似た言葉と比べるコツ」を使い、「おばあちゃん」と「おばあちゃあん」や「ありがとう」と「あ、り、が、と、う」について考えて読み取った児童は、考えて表現した音読を友達に聞いてもらったり、自分で聞き直したりすることによって、自分の考えた気持ちが表せたか、また、相手に伝わったかを確認し、さらによいものにしようとする主体的に活動することができた。

## ■自己を見つめる振り返り活動を行う

振り返りの視点として、「どんなコツを使ったか」「想像したことを音読に表現できたか」「友達の学びから自分の学びを振り返ったか」を示して振り返りを丁寧に行った。



児童の振り返り（ワークシート・ノート）

そうすることで、児童の振り返りの内容が、より具体的になったり、友達の読み方から自分の読み方の工夫を増やしたりすることができた児童もいた。音読の工夫を考えながら練習をくり返す中で、チロの気持ちに共感し、さらに読みが深まった。

## 2 成果

- コツを意識し、使えるようになったことで、丁寧にチロの気持ちを考え、不安や喜びに共感できる児童が多くなった。
- 児童が自分から物語を読もうとするようになった。
- タブレットに録音することで、読み方の工夫を思い出し、緊張感をもって読むことができた。また、聞き返して児童同士で評価し合うことができた。思考したことと表現を行き来して考えることができた。
- 次の「読むこと」に関わる学習で、「比べるコツ」や「動きから見付けるコツ」を使って考えようとする児童が多かった。

### 3 課題

- まだ、全員が「物語を読むコツ」を獲得できているわけではない。繰り返し指導していく必要性を感じている。
- 同じ場面を選んだ児童同士の交流はあったが、他の場面を選んだ場合には交流の機会がなかった。音読発表会を計画すればよかったかもしれない。  
1年生の段階としては、物語を読もう、読むことを楽しもうとする姿勢を大切にして授業に取り組んでいきたい。

### 4 討議

単元の学習の中で大切にしたい「思考と表現の往還」について、児童が各場面で素直に感じ取ったことを音読表現に生かせる単元計画になっていて参考になる。それを支える「コツ」の中には、1つの単元（おとうとねずみチロ）では扱われなかったコツもあると思うが、年間を通して使いたいコツを考えておくことで、今後どんなコツが使えるかを見通すことができる有効なものになっている。ぜひ活用してみたい。

学習活動	子どもの反応例	活用できる コツ	思考と表現 の往還	振り返り
<第1時> ○題名や P67 の挿絵から、物語の内容を予想して話し合う。	・森の中の3匹の兄弟のお話だね。 ・チロはおとうとねずみの名前だ。 ・誰から手紙が来たのかな？	見つける ・絵から 比べる ・百分と		
	人物の気持ちを考えながら、音読しよう。			
<第2時> ○物語を通読し、チロについて思ったことを話し合う。	・手紙はおばあちゃんからだんだんだ。チロのチロキが描いてよかったね。 ・チロが木のてっぺんにつけたのぼったのが心に残ったよ。 ・チロが喜んだから安心したよ。	想像する ・心 見つける ・絵から ・動きから		
<第3時> ○チロの気持ちを考えながら読む。	○さあ、三びきは次よろこび ※「よろこんだ」と比べる ○「ぼくは赤と青」 ○「そんなことないよ。ぼくのもあるよ」 ○「そうだったら、どうしよう」 ○「どんな顔をしているかな？」 ※どんな気持ちかな？ ○あわてていはいえましたが ※「あわてて」があるときとないときを比べる ○とてもしんばいでした ※「とても」があるときとないときを比べる	見つける ・絵から ・動きから 比べる ・百分と ・よく似た言葉と ・あるときないとき 想像する ・心 ・顔 ・動き ・声	<思考> チロのチロキは ないと言 われて心 配してい るよ。 ↓ <表現> 心配な 気持ちが伝 わるよう に、小さ く泣いそ うな声で 読もう。	どんな コツを 使った か？
<第4時> ○「そうだ、いいことがあった」 ※どんな顔をしているかな？		見つける ・絵から		

Q：使いやすいコツと使いにくいコツはあるか？

A：「使いやすいコツ」は、挿絵や動きから考えるもの。例えば「大きなかぶ」では、おじいさんからねずみまでの動きや表情から「やっ」との意味を理解させることができた。このことから、言葉が「ある」と「ない」を比べて考えることはしやすいことが分かった。

「使いにくいコツ」は、前の文や場面と比べること。場所の変化や登場人物の変化は比べやすいが、登場人物の気持ちの変化は比べにくい。

Q：物語を読むコツの表がとても分かりやすいが、この取組は、学校全体でしているのか、1年生だけなのか？

A：学校全体ではない。担任した学年の実態に合わせて変更を加えながら取り組んでいる。高学年になれば、コツの中身も変わる。

Q：読み取りから音読への流れは1時間の中に重要なことが2つあり、大変ではないのか。時間配分や計画はどのようにしたのか。

Q：大切にしたいことが登場人物の気持ちだったのに、思考と表現の往還と言いつつ表現（音読）に偏らないのか。どのように工夫したのか。

A：コツを使って気持ちを考えることを1時間の中で重視している。音読については、特に「だあいすき」と「あ、り、が、と、う」のところだけを1時間の読み取りのまとめとして授業の最後に音読させることにした。音読の練習は、第6時で行った。

大切にしたい3つの活動に関連づけた単元計画表

## 5 指導 (三豊市立勝間小学校 河田佳代教頭先生)

実践が素晴らしく、これからの若い先生方のためにもなる実践提案だった。

「読むことの内容」については、学習指導要領 p 69 に書かれているので確認してもらいたい。文学的な文章を読むためには、「具体的に想像すること」が大切になる。

### ○ 物語を読むコツについて

コツを知ることの価値が教師側と子供側両方にある。

教師側の価値は、子供の発見を見逃さない。子供が発見したことを価値付けできる。

そして、子供の自己有用感を生み、「楽しい」につながるができる。子供がもし発見できなくても、教師の出番として意図して教えることで、気付かせることができる。

子供側の価値は、自分の伸びを自覚したり、友達の伸びを自覚したりすることができる。個によって得意とすることが違うので、それぞれの子の得意を生かすこともできる。

想像のコツは、学年が進んでもずっと使っていくことができるコツ。五感と心を合わせて文学的な文章を読む力を育てることができる。1年生から6年生まで積み上げていくことで、力を伸ばしていくことができるだろう。

### ○ 挿絵について

学習指導要領解説 p 70 に 1・2年生では、「挿絵なども手掛かりにしなごら一」と「挿絵」について扱われているが、p 72 の精査・解釈や3年生以上の項目には表記されていない。

絵を描く人と文を書く人は違ご。作者の了解を得ていても挿絵には画家の想像が入る。しかし、1年生という入門期の段階ではそれでも有効なアイテムであり、だんだんと学年が上がるご「絵から想像するコツ」は必要なくなっていく項目である。そして、「叙述をもとに」や「心情や描写をもとに」読むコツへ移行していきたいものである。

### ○ 思考と表現の往還について

物語を読むコツ使って具体的な想像ができていたからこそ、音読につなごことができる実践である。

現在、子供たちの周りには動画があふれている。動画は想像しなくても理解できるご受け身になりがちである。反対に、文字ばかりの文章は、想像できないご楽しくない。子供たち同士のトラブルの中には相手の気持ちを想像できないごが原因で起こっているごも多い。だからこそ、具体的に想像できる力を意図的につけていくごが必要なのである。

「物語を読むコツ」を知っていれば、児童は自然ご「思考と表現の往還」を行っている。同じ場面の音読を全体で比べてどれがふさわしいご考える活動があってもよいし、音読発表会等では、監督役を作って動画にしてみる活動があってもよいごもしれない。

また、音だけで表現するよさもあるご、効果音を入れてみたり、動きを入れてみたりすることもよいごではないごか。これでごなくてはならないという正解はない。先生方の工夫でいろいろ楽しんで挑戦してほしい。